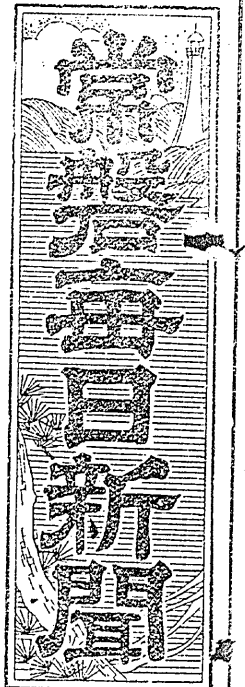


刊夕日六十二月二



定価一圓... 發行所 常磐新聞社... 印刷所 常磐新聞社

常磐炭田の開發

片寄平藏 (五)

山口彌一郎

炭油は彌勒澤附近で製造した外、大浦村大森の半藏宅地附近の畑地にも釜を造り製造したらしく後年釜跡を掘り出した。當時炭油と稱したのは前述の如く全く現在のコールターに外ならず。當時の油を説明した文に「其製する所の油は色純黒質濃厚にして粘りあり軍艦其他外部腐蝕を防ぐべき者に塗擦用として其効用漆に譲らず又燈火に用ひて其明瞭々たり之を江戸に出す」と。

向は瓦斯を製造して燈火に用ひたる等全く當時近隣の人々は驚異の眼を以つて平藏の才に感服しないものはなかつた。次の如き挿話が残つてゐる。

或る日平藏の炭油製造御見學に湯長谷藩主内藤公自ら家臣數名を率へて御出でになつた。平藏は大いに喜ろこんで懇切懇應致らざるなしの有様であつた。平藏一計を案じ豫め竹管を以て床下より宴席の中央に製油の煙を引いて居いた。一座

の者は之を知らなかつた。適く夜になると平藏立つて先の竹管に火を點じた。即ち煙氣燃焼忽ち光輝を放ち、壁々座を照して晝の如く別に銀燭を用ひなかつた。内藤公大に其奇を賞し満座も亦悉く之を驚歎したと言ふ。これは今の瓦斯燈に擬したもので江戸に於て既に瓦斯燈があつたものか詳かでないが全く平藏の能く理學の一部に通じた非凡の才子であつた事が證せられる。

然し白水附近では平藏の偉才を知らず、生炭を採掘することすら多年の慣習で喜ることばず、コールターを採取の折の煙が中天を蔽ふのを見ては天罪があるとし太陽がくもつたり又直接煙のため作物の發育が思はしくないと云つては寄り／＼百姓一揆が起り始める形勢にまでなり、種々の感情も手傳つて相當苦境に立つたことがあつたらしい。白水の大越甚六氏や、平藏の才を信じた湯長谷藩士の助力が着々圓滿に平藏をして仕事を運ばせることが出来た。

2 採掘法

實際未だ當地では石炭の使用する氣の起らない頃であるから採炭夫は職人であるから採炭夫は職人であり、組織的な坑夫住宅としてはなく開墾地の堀立小屋に倒茅葺で生炭を直接焚いたので眞黒になり坑夫も坑内の炭塵も黒くなり常に野人の様な生活をしてゐたので附近の百姓は全く顔をそむける事が多かつた。

て俵につめ後は手心で同じ十六貫匁をつくつたが毎日の熟練から殆んど皆精確に十六貫匁が入られた一日約三十俵の仕上げが單位で夕刻坑内より背負ひ出し事務所側の納屋に積んで検査を受けた。

燈火設備も全く不完全で、もとは瀨戸物に種油を入れ、燈心に火をともしてゐた。それが亞鉛板の器物にかはり石油が入つてカンテラと進化した。鶴嘴も普通土工の用ふるよりは圓みをもたず柄に直角なもので最初は片と稱し片方のみのを用ひ後に兩鶴を用ひたらしい。然しその使用順序は當炭田では不明瞭である。

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 (申込次第規則書進呈) 電六三〇番

看護婦急派の求めに應じます 平町南町 平看護婦會

有給社員數名募集 男女7間ハズ奮闘家ハ來タレ 固定給及月收多希望者ハ午前中來談アレ面會ノ上相談ス。 共保生命保險株式會社 磐城監督所 所長 福島健之 平町白銀町一〇

耳鼻咽喉科専門 氣管食道科 平南町 大和田醫院 (電話一七〇番)

學校卒業賞品特賣 各學年卒業修業期が近づきました。各種賞品種類も全部荷揃致しました御仕入の絶好期、卸賣特に御務め勉強致します。 景品賞品類 進物贈答品 恩賜賞品類 記念表彰品 各國産漆器 共榮漆器店 平町三丁目北裏通り

阿康藥舖 丹波博士創製セキドメ たんばあめ 靈藥ムテキ 平町古鍛冶町一〇 縣社ノ下 電話四四番

磐城共済病院 電話(六四一)番 小内科 石山謙二郎 婦人科 五十嵐雄二 外科 有馬勇二郎 皮膚性病科 石山謙二郎 耳鼻咽喉科 石山謙二郎 X光線科 石山謙二郎 物理療法科 石山謙二郎 藥劑局 石山謙二郎 衛生試験所 石山謙二郎

豫算町會

けふ開く

前年度に比較し 四萬六千圓減額

本日午後一時より開會された平町會に上提の昭和九年
度歳入出豫算に依れば歳入出共に卅三萬五千五百圓に
て前年度の卅七萬六千九百九十九圓より四萬五千九百圓
の減額を來してゐる、即ち歳出經常部に於ては廿八萬
七千九百八十八圓にて前年度より八千八百四十五圓を増
して居るが同臨時部に於ては四萬八千三百二十二圓にて前
年度より四萬九千四百四十圓の大減額を見た結果であ
る因に各科目の比較左記の如くである(△印は減)

歳入の部

科目	本年度	前年度	増減
□財産より生ずる収入	一、〇八八	一、〇九〇	△二
□使用料及手数料	一〇三、七〇二	九一、九六二	一一、七四〇
□水道工事費収入	七、三〇七	九、三八八	△二、〇八一
□交付金	四、四九四	四、三八四	一一〇
□國庫下渡金	二七、五〇一	二七、五〇一	〇
□就學獎勵金	二七六	二七三	三
□國庫補助金	八、三二〇	五、一四一	三、一七八
□縣補助金	一、七九九	一六、二二七	△三、四二八
□請負金	一	九、二七九	△九、二七八
□寄付金	二、七一〇	七、四四〇	△四、七三〇
□繰入金	二〇〇	二〇、六四〇	△二〇、四四〇
□財産賣拂代	一、〇八四	一八、二七四	△一七、一九〇
□繰越金	一、〇〇〇	一三、八〇〇	△二、八〇〇
□雑収入	九、二三三	一〇、三二五	△一、〇九二
□町税	一、七七八	一四、三七五	五、四一二

合計 三五、五〇〇 三六、〇九九△四〇、五九九

歳出經常部

科目	本年度	前年度	比較
◇神社費	八〇	七〇	一〇
◇會議費	一、八三二	一、七七二	六〇
◇役場費	一、三三八	四、二〇四	一、九三四
◇土木費	七、二四二	七、一七二	七〇
◇小學校費	一、六六六	七、一三九	二、〇二七
◇商業學校費	二六、二五八	二三、九一四	二、三四七
◇公民學校費	五八二	七二二	△一三〇
◇青年訓練所費	一、〇九八	九八七	一〇九
◇學事諸費	四六二	四四八	一四
◇トラホーム豫防費	五〇四	五〇〇	四
◇傳染病豫防費	一、〇四七	一、〇一七	三〇
◇傳染病院費	三、六九五	三、五八〇	一五
◇汚物掃除費	六、四六一	六、四四一	二〇
◇水道事業費	一一、八七四	一二、三九五	四七九
◇公園費	一、六二一	一、五八九	三二
◇火葬場費	八三九	七七九	六〇
◇勸業費	四四〇	五六〇	△二〇〇
◇統計費	三六三	三六八	△五
◇職業紹介所費	二、六二〇	二、六三七	△一七
◇救助費	二〇〇	二二〇	△二〇
◇救護費	一、六九五	一、五四九	一四六
◇警備費	六、三三五	五、八二八	五〇七
◇徴發費	一	一	〇
◇財産費	一、〇八九	一、〇五九	三〇
◇諸稅負擔	二九〇	二八三	七
◇公金取扱費	四九六	四九六	〇
◇雜支出	二二	七七	△五五
◇公債費	三、三五七	七、四二八	△三、九二六
◇戻入金	三、九九九	三、九二二	五七
◇地方改良費	四一〇	一、八五〇	五六〇
◇豫備額	六、〇〇〇	二、五〇〇	三、五〇〇

合計 二八七、一九八 二六、三五三 八、八四九

同臨時部

科目	本年度	前年度	増減
◇土木費	三、〇六二	四、四三三△三、三八一	一、三七一
◇小學校費	三、〇九〇	一、九八七	一、一〇三
◇商業學校費	一、三二二	一、六四五	△三三三
◇公園費	七二七	八二	六四五
◇警備費	五、五〇〇	五、三六九	一三〇
◇傳染病院費	一、〇五〇	二、四〇〇	△一三五
◇寄附金	一、一五〇	一、三〇〇	△一五〇
◇補助費	三、六四〇	四、四五五	△八、一五一
◇町是調査費	三〇〇	三〇〇	〇
◇訴訟費	五	三五五	△三〇〇
◇役場費	一、〇〇〇	一、四五〇	△四五〇
◇水道費	七、七七六	七、七五四	二二
◇火葬場費	二七五	一五〇	一二五
◇都市計劃調査費	一、二五〇	一、〇〇〇	二五〇
◇土地拂下繼續費本年度支出額	一、三五〇	一、三五〇	〇
◇小學校敷地買收費	八、七六〇	七、五〇〇	一、二六〇
◇奉安庫建設費	一、八〇〇	一、八〇〇	〇
◇小學校増築費	一八、五一六△一八、五一六	一八、五一六△一八、五一六	〇
合計	四八、三〇二	九七、七四六△四九、四四四	四九、四四四

財源難を緩和して編成

歳出入の主なる増減

別項中町九年度豫算の主なる増減は先づ歳入に於て
既記の如く小學校高等科及
び商業學校の授業料値上等
に依る

額約 四千圓及び街
頭廣告柱建設占用料の新設
の減少を共に此の收入一萬

七千圓を減額、雜收入も一
千九百圓の減収となつて
一般的なる財源難に備ふべ
く特別戸數割從來平均

負擔額 十六圓六十
錢であつたのを一圓値上の
止むなきに至り此の増収四
千八百五十圓となる又歳出
經常部にては名譽助役一名
増員の報酬年額八百圓を増
し収入役給料九百六十圓な
りを九百圓と減少

土木費 には大差なき
も、小學校、商業學校則れ
も多少増額、水道給水費も
材料の騰貴に依る増額ある
警備費は消防手足袋の百卅
圓、幹部用洋服一着分三
百八圓其他にて五百七圓の
増、豫防金は二千五百圓で
あつたのを六千圓と改めて
幾分餘裕を示した次に同
臨時部は餘り新事業に手を
染めぬ關係と奉安庫建設や

木村科醫院

平町五丁目橋際
電話九〇三番

第三小學校の増築が完了し
た爲め一般を通じて

四萬圓 以上の減額と
なつて居るが土木事業は星
眼科院貫通堤の内道路、鍛
冶町裏通の改修擴張等あ
り小學校費は運動機具の設
備や修繕費等に於いて一千
百三圓の増公園費も北口入
道路の擴張八ッ橋の改良等
に於いて六百三十五圓増額
懸案の 都市計劃調査
費は給料や雜給等に千二
百五十圓を計上して居る

坑内深く

五名をうめる

三名の望み絶ゆ 昨日磐炭の大落盤

内郷村磐城炭礦高坂第二坑内に去る廿四日午後三時頃空如大落盤あり作業中の同村字御蔵藤正夫(三)東京市深川區猿江町裏町生れ大市謙吉(三)新潟縣蒲原町本間平次(三)磐崎村字湯長谷生れ佐竹廣次(三)伊達郡茂庭村生れ山川淺吉(三)の五名が生き埋めとなつたので

同礦業所では坑夫二百餘名の救助隊を送つて作業を行ひ同日午後七時に山川淺吉を救助し昨廿五日正午には現場係員佐竹廣次(三)が虫の息となつて居るのを救助したが間もなく病院内で絶命した残り三名の生命は絶望視されて居るので家族等は坑口に泣きぬれて居ると

濱三郡中等學校

聯合演習實現か

濱三郡磐中、平商、双中、相中、相農各中等學校聯合演習は一昨年の配屬將校會議で双葉郡大野原を中心として行ふ可く決定されたが其後配屬將校の更迭其他の關係で延々中の處々々来る四月中旬相中に於て配屬將校會議を開き種々協議の上今年こそは實現を見る豫定である

席表彰を受ける者は卒業生三十八名中左記四名である

四家肇 山田正直 柚木秀雄 門馬利治

けさ大町の小火

出場所が怪しいので取調

本廿六日午前八時二十分頃平町大町下宿屋二葉館事邊デン方二階庇附近より發火し火は軒傳ひに隣家の大工職野口善作方裏板に燃移り正に大事に至らんとしたのを家人が発見急を聞いて駆付けた消防組員の應援で裏板三間餘を焼き九時鎮火したが平署では發火箇所が怪しいので關係者を呼出し

五ヶ年間

無缺席者

平商で表彰

既報平商業學校本年度卒業式は来る三月十二日午前九時より同校講堂に於て舉行されるが當日五ヶ年間無欠

磐中磐女の

既往受験者

既報去る四日より新學年の生徒募集を開始してある磐中、磐女の應募者は目下の處磐中一名、磐女四名であるが例年から見ると兩校共四百名近く達する見込みである因に兩校に於ける過去五ヶ年間の受験者は左の如くである

年度	磐中	磐女
四	四六〇	四三六
五	三五二	三八一

磐女石島嬢優勝

激戦の女子卓球選手権大會

既報第三回郡下女子ピンポン選手権大會は昨日午前九時より磐女控所に於て平卓球協會丹野會長の開會の辭あつて直ちに平稅務署の三浦氏審判の下に試合に移り磐女を始め日立、入山、古河等より出場した十六名の選手はいづれも鮮やかな妙技を見せ左の戦績に依り磐女三年石島トミ子嬢が遂に榮ある優勝ガッツを獲得した

△準々決勝	波邊 3-1 中井
堀江 0-3 磯目	堂野 0-3 山野邊
石島 3-0 中村	△準決勝
波邊 3-1 磯目	石島 3-0 山野邊
△決勝	石島 3-1 波邊

苦しい五人暮し

老婆悲觀の縊死

家出して五日目に屍體發見

下小川村大字上平字光平三居住農精一母根本サキ(六)は去る廿一日自殺する旨の遺書を殘して家出したので青年團員の應援で捜査中の處昨廿五日午前十一時半頃平窪村大字上平窪字横山内山林の松の木に帶を釣つて縊死してゐたのを發見平署員檢視したが原因は一家五人暮しの生活難を悲觀した結果である

小野田で

坑夫募集

磐崎村小野田炭礦では炭界好調の波に乗つて採炭夫の不足を告げてゐるので目下百名の坑夫募集を行つて居るが賃金は二圓五十銭から一圓で外に入坑賞與がある

無鑑札狩獵で

川村大字羽岡字喜平居住農

明日の部

今晩は南西の風 明日は西北の風 晴勝ち

皇と日本精神一富山春三 後八、〇〇 舞臺劇「戀飛脚」和往來」中村福助外大勢

後八、四五 名畫物語「マノンレスコー」仙石雷蹊 伴奏指揮 福田宗吉 後九、三〇 時報「ニュー」氣象通報 番組豫告

明日の部

前七、〇〇 基礎獨語講座 (二十一)橋本忠夫 前九、一〇 料理献立「鰻タルタルソース」朝倉長吉發表

前一〇、三〇 家庭講座 「職業再教育に就て」守屋喜元

後八、〇〇 絃樂四重奏盛岡室内樂協會

後二、〇〇 家庭大學講座 「新日本畫の描き方」六望月春江

後六、〇〇 子供の時間

地方債借換協議

内務省龜岡屬來郡

縣主催の地方債借換變更方法協議會は三月二日午前十時から平町團體事務所にて開かれるが内務省から龜岡屬臨席する

陸軍自動車隊

通過町平

東京世田ヶ谷陸軍自動車學校では宮城縣方面での自動車操縦演習の爲め來月十七日軍用自動車、乗用車、サイドカー等五十餘臺が原隊より一路濱街道を疾驅して平町に到着小憩後北上するので本日平土木監督所に沿道路線の詳細な照會方を依頼して來た

平署の盛況

劍道講習

本縣警察部主催の劍道講習會は二十六日から三日間平署道場に開かれたが講師は縣警察部小川文章範士で參加受講者は四十五名に達する盛況である

裁判所たより

△既報双葉郡熊町村大字小入野字赤野谷地目下住居不定無職吉田幸作(三)の自動車只乗り逃走事件の公判は本日午前十時より平區裁判所に於て中島判事係り三堀

小店員數名募集

年齢十五才ヨリ 優遇 御希望ノ方ニ午後一時ヨリ本人御來談下サイ 平町田町一七 レストランサロン 電話三五二番

平職業紹介所報告

△人を求める方

△女中、二十才以上 尋卒 給料面談

△鮮魚取扱、二十より三十 迄 尋卒 十圓

△回職を求める方

△トランク助手、二十三才 尋卒 給料面談

△事務員、五十一才 高卒 給料面談

△商店員、二十才 高卒 給料面談

△百貨店員、十六才 高卒 年俸徴兵検査迄

銘劍秘双録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第六十六回 徳川家に崇る村正

とんだ處へ主人が

女「アラ貴方、何をお笑ひになつたの」

艶めかしい聲、いやもうすつかり打ち解けてゐる、重太郎尙喰つたが、いやこりや油斷が出来ない、能く斯う云ふ手で美人局がある然し八丁堀の同心を美人局にかけたら面白からうそんな事を考へながら

重「どうぞもうお構ひ下さいませ、とんだ御厄介に相成りまして済みません」

女「まああなたそんな堅苦しい御挨拶は抜きに致しませうよ、通り雨ですから直さ上ります、それ迄ゆつくりしてゐらつしやいませ、私も一人で退屈してゐるのでございませよ、女中なぞ居りました處で、話相手になりは致しません」

重「大層結構なお住居で、女「あらいやでございませお褒め下さいませと、ひやかされる様な氣がいたしまして冷汗が出ます」

重太郎はとも太刀打ちが出来ない、手持無沙汰で腰から煙草入れを出して、バクリ／＼煙草を吸ひながら座敷を見廻してゐる、女「貴方困りますわよ、

盃洗で一寸濯いで重太郎の出へ出す
重「手前不調法で……」
女「オヤそうでございませうか、それでも女に恥を掻かせるものぢやございませうよ」
と一寸仇ツばい眼で睨む重太郎心中に愈々これは美人局だ、變な事をしたら取捉まへてくれよう、夫も歩けば棒に當る、御馳走になつた上縛も可哀想だが、まあ仕方ない、これも役徳だと固い重太郎も幾分か賣氣を出した二ツ三ツ重太郎か受ける内に女は餘程ノ酒と見えて、手酌で大

んなにござらんになつて、蜘蛛の巣などお見付けになつてはほんとうに掃除が行き届きませぬのですから」
重「イヤどういたしまして……」
處へ女中が膳を持つて入つて来たから重太郎愈々驚



重「これほどもう却つて迷惑を致します」
女「まあ貴所何もございませんが、お一ツ宜いぢやございませんか、敵の家へ來ても口を濡すといふこともございませよ、アアどうぞ

七杯呑んで、ジツト重太郎の面を見つめながら
女「女のくせにこんなにお酒を頂いて、定めし貴方愛想が盡きたでございませう……」
重「いや上れ、方は男女に限りずお上りなさる方が宜

しうございませう」
女「さう仰言る貴方も飲がり工合を拜見すると大分いけぢやアございませんか」
重「いや私は……」
女「おかくしになつてもわかりませよ、ホ、ホ、」
と疝高い笑ひ、目元がポツト赤くなつて膝も崩し、いよ／＼以て艶めかしいその内に眺へ物と見えて、お刺身にお椀などが膳に並ぶ重「斯様な御手厚い待遇で恐縮」
女「まあ宜いではございませんか」
重「それでも御主人の御留守に出ましてどうも」
女「なに貴方御主人も何もありやしませんよ、女世帯なんでございませよ」
それが怪しい女世帯などいふものは後から亭主が出て來るものだ、然し相手の女が自分よりも一段上だ下手なことをして役目を失策る様なことがあつては物笑ひになる、そればかりぢやない、自分の望みも滅茶／＼になる、どれ宜い加減に引き上げやうと考へたから
重「オ、好い鹽梅に小降りになりました、それではこれ御免を蒙ります」
女「あれまだ好いぢやありませんか、もう少しお待ちなさいませ、その内にスツカリ上りますよ」
としなやかに
女「ご退屈でしたなら何かやりませうか」
重「エ、……何を」

女「下手でございませうけれど一中節を少しばかり習ひました、お聞かせ致しませうか、且那貴方も何か遊ばすでございませう、あなたのお柄では豊後でございませうか、それとも長唄、そ

うでございませう」
重「どういたしまして手前不器用でございまして、小謠なら子供の時分少しは習ひました」
女「アラ謠を、結構でございませぬ、併しお酒の席には一寸向きませぬね」
ツイ、立ちをびれてもぢ／＼してゐる折柄ガラ／＼と手荒く格子を開けて、
○「サアいらつしやい、これが手前の別宅だ、アハ、ハ、」
と高笑ひしながら入つて來た者がある、重太郎と女は思はず顔を見合せた。

女「下でございませうけれど一中節を少しばかり習ひました、お聞かせ致しませうか、且那貴方も何か遊ばすでございませう、あなたのお柄では豊後でございませうか、それとも長唄、そ

花柳病科 小兒科 内科

藤沼醫院

入院應需

町番 七〇五 電話 五〇七

吸入用酸素純度 99%

● 最新なるスタイル ● 堅牢極まる品質
● 精選された材料 ● 驚く可き廉價
既に覇權を確立せる……大塚の靴

御用は 大塚製靴部 電話七十七番

● 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

● 寫真材料 販賣致シマス

關内藥局 電話四〇番

阿部石炭商店

平 驛 前

電話 二七番

石炭 コークス 炭

玉炭

謝恩と 奉仕に 燃ゆる大塚へ……

靴! 五圓以上一割引